

びぶりおてか



同志社大学図書館報 №27. 1980. 4. 1

目次

日本の女性は強くなったのか	中條 毅	2
「死の家の記録」のことなど	植田三郎	3
カウンターから「思うこと」		4
実例を中心とした資料のさがし方		5
カウンターの顔		8
ピックアップ「主図合結記」		11
最近購入の「ドイツ語文献目録」について		12

日本の女性は強くなったのか

文学部教授 中 條 毅

この4月に感涙のロードショー、アメリカ映画「クレマー・クレマー」が日本で封切られる。全アメリカ人をワッと泣かせた最近の夫と妻の生活の物語りというものである。

果して「日本人もこの夫妻の生活をみて泣くのだろうか」というのが私たちの疑問である。泣かなければ、未だ、日本の間には「家族」とか「夫婦」を考える場合「ちがいが」といえる。

「日本人論」が再び、にぎやかである。E・ライシャワーの「ザ・ジャパニーズ」とが、エズラ・ヴォーゲルの「ジャパン・アズ・ナンバーワン」の日本訳が今年の夏、ベスト・セラーになった。両者とも「日本人讚美論」である。

ところが、グレコリ・クラークの「日本人論」も注目を浴び、第一、日本中を彼は講演で走り廻って、日本人を酷評してうけているから面白い。

日本人は「外国人がわれわれをどうみるか」に関心が深く、西洋人にほめられることを歓迎しているようであり、それは日本人のコンプレックスと大いに関係があるようだ。

日米外交の絆の役割を演じている親日家・ライシャワーは別として、ヴォーゲルに至っては「世界の範たる日本人」として、そのメリットを積極的に米国に向けて紹介している。しかし島国、日本人には、自分の姿を客観的にみつめたい、国際的な鏡にうつしてみたいという積極的側面も出てきて、これがクラークの受けている背景でもある。

「青い目の日本人論」は、むしろ、日本人にうけているといえるが、海外でも、注目されている事もあながち誇張ではない。

それは、経済力を中心に一挙に、世界の先進国の中に台頭してきた非白人・日本人の生活面の特殊性、つまり近代化のテンポとニュアンスのちがいが問題となる。

たとえば家族（生活）の中の親子（老若）関係で「子供のある老人の同居率」をみると、「日本の老人の約74.2%は子供と同居しており、今後も同居の志向性は世代が変わっても、当分、受けつがれることが推定される」（52年・厚生白書）。親子同居率は英国で42%・米国で28%・デンマークが僅か20%である。しかも西欧（米・西独の調査）では7～8割の青年が「同居しない方がよい」と答えているのは当然として、日本の青年は「同居がよい」と答える者が、何と7割以上もいる。確に、今後の老人福祉の含み資産でもある。

さらに、生活の男女関係（結婚）面では、たとえば、米国では離婚が2組の夫婦に対し1組・州によっては4組に3組の割合である。1970年からの5年間に女性を世帯主とする家族の数が30%増加、35歳未満の独り住居の数が150万人から300万人に倍増し、それこそ、女性独身時代を謳歌し、同棲中の男女が数年来、増え、離婚も増えている。離婚した中の8割は再婚し、その中の4割は、さらに離婚している。

スウェーデンでも同棲が結婚の正常な状態のようにもなり、20歳代の女性は無届結婚が8割近くもあり、3分の1は非嫡出子（私生児）つまり婚姻外に生まれた子供である。

ソヴィエトでも3組に1組が離婚し、沿海州では2組に1組が離婚している。離婚の3分の1は結婚1年以内のものである。

トフラーにいわせると「家庭は一度、極度に破壊されて、そのあとに今の形態とは違った新しいものが現われる」とのことであるが日本の場合も、この傾向はあっても、そのテンポは、ゆるやかである。西欧の短期断続型婚に対し、日本は長期継続型婚にとどまっている。前者が性を通じての男女の精神的肉体的全人結合さもなくば離婚または独身であるという傾向に対し、日本の場合、「亭主は達者で留守が良い」という、諦観的、中味離婚型で、形は一応、家族の形態を持続させている。離婚率も西欧に比べ、まだ少なく、非嫡出子も0.8%、結婚届をする者は90%という凡帳面さである。それにしても離婚率はそれなりに急増している。離婚を切り出す方も「妻から」の場合が55.3%と多く、「夫から」の場合は35.2%であり、「引きとる子供の数」も7割以上が妻に引きと

られ、妻の自立自活の傾向が目立っている。しかし、米国にある「離婚扶養」などは数少ない。

一方日本人には「相手を完全に従属させて壮快とする人間」と逆に「他人に完全に隷従して、自分を相手に埋没させて快しとする人間」の関係があり、したがって男は単人を演じて型にはまり、女は娼婦を演じて巧みであるともいわれた。権威、隷従の関係は仕事を通して男と男の中にもあり、夫と妻にも、この関係の豊型があった。しかし、最近この傾向に対する不満と反逆が中年以降の妻にもうつせきし、夫への面従腹背という傾向が目立ちはじめ、主人への抵抗に母子連合軍、(特に母娘)を育て、あるいはこれがトラブルの増大、離婚という形で顕在化してきた。

病気で動けなくなった夫への復しゅうを毎日の「生きがい」とする老妻が現われたり(保健婦、大工原秀子氏のレポート)または「子育て」の終わった妻が魂のない形だけの夫との結びつきを清算するため、寿命が伸びて長くなった老後生涯を「夫のためから自分のために生きる」ことを決意し、突如として離婚を申し出る事件も、この10年に増殖している。(東京家裁)

「長生きの社会到来」で女性のライフ・サイクルと「考え方」が急変しつつある時代である。米国でもゲイル・シーヒ女史の著書「パッセージ」が450万部の超ベストセラーとなって、「女性の新しい生き方」が注目されている。そういう中で、日本でも最近「結婚を望まない女性」が4人に1人と意識の上で増え、そして結婚の対象としても「理解のある男性を望む」という女性(40%)が従来の考え方であった「頼りになる男性を望む」という女性(44%)の数に接近している。(総理府広報室53年調査)

中高年男子にとってもこれらの事態は今後老後生活設計の大きな指針教訓となりそうだ。

「死の家の記録」のことなど

工学部教授 植田三郎

第2次大戦で日本の敗色が濃くなったころ、私の友人も戦争に行くことになった。

「もう一度この本を読んでみたよ。まあ、これで、気持もすっきりしたようだ。これ、もっていてくれよ」こういって私に手渡されたが、ドストエフスキーの「カラマゾフの兄弟」だった。

かれは戦死した。私にはドースキイも「兄弟」も無知だったが、形見のようにして大事に取って置いた。

何年か後、寒い、どんよりした冬の日だった、と覚えているが、ふらりと本屋に入って、なんとなくドースキイの本が並んでいる所を眺めていると「死の家の記録」というが目についた。買って読み始めたところ、引きずりこまれるようになって、いっきに最後まで読んだ。かれが政治犯としてシベリアに流刑されたときに、監獄の中で出合った囚人たちの生きざまを、シベリアの大自然を背景にして書きしるしたものである。

それからは、空しいときや不安なときに何回となくこれを読んだ。なにか少しほっとするようになるのである。そして、「兄弟」が「死の家」に現われてくる人物をモデルにしていることを知ってからは、この「兄弟」も読むようになった。底なしの暗い深い淵をのぞきこむような気持におそわるようなところがある。

昨年の夏、軽井沢にいくときに、思い出してドースキイの「創作ノート」をバックに入れた。

この浅間山ろくの高冷の町に行くと、いつも町はずれの林の中の聖公会ショー氏記念礼拝堂でぼんやりする。庭にはまるい金属板の日時計があって、ときおり木もれ日がスタンドグラスを通した光のようにキラリとする。

ショー牧師が軽井沢に避暑地を拓いた明治のころは、木立も低くまばらで、太陽の光が強く明るく照りつけていたのだろう。昨夏もいってなにげなく金属板のふちのラテン語らしい文字が目に入った。これは同志社にSeymour Houseを贈られた、Miss Seymourと同じだ。

ラテン語の読めない私は、たまたまおられた主座司教の西松さんにおたずねすると、ラテン語にたんのうな某氏に読んでもらってあげましょう、とのことだった。

秋、京都に帰った私に手紙を下された。それによると、

「1917年、21才で祖国に捧げられた Sey-moun のために」とのこと。

1917年といえば第1次大戦のころである。戦死したらしい青年と Miss はどんな関係だのだろうか。それとも偶然だろうか。

私には、それよりも、この青年の死で友人の戦死を思い出さされて暗然としたことだった。

ロシア語で「死の家」を読みたいなあ、と思ったことがある。大学院のころ、論文、というよりは表題を読む必要上ちょっと学んだことはあったが、すっかり忘れ果てていたので、末包先生にお願ひして聴講させていただいた。ロシア文字の話はいろいろかかったが、ロシア語のほうは「赤いサラファン」を原語でたどる程度で終わってしまった。残念だ。

昨年の暮に「シベリア流刑時代・女友達への手紙」が出たので買ったが、学年末をひかえ何かと仕事もあるので、まだ読まないでいる。

一段落した早春に読もうと楽しみにしている。

こういう本は部屋で読むのも私にはつまらないように思える。

どこか、北山あたりの、つくしの生えているような草むらに寝ころんで、あちこち読みちらすのがいい。

「春。太陽は日一日と暖かく明るくなっていく。周囲の自然ははかりしれない生命力をもってよみがえっていく。

私は監獄の柵に頭をくっつけて、すきまから、外の草がだんだん青みを増し、空の藍色がこくなっていくのを、くい入るようにのぞき続けた」

「ここに住む人たちは稀にみる、もっとも天分豊かな、強い人たちだった。それらが異常に、不法に、二度とかえることなく滅び去ってしまった。…だれの罪だろう。本当にだれの罪だろう」

とこの流刑囚は書き綴っている。

自由をうばわれたかれは、それだけに、私などのうかがいしれない、おそろしい抑圧と人間の深みを、かいまみていたのかもしれない。

カウンターから

“思うこと…”

カウンター業務は、午前10時から始まる。天候や曜日によって、図書館利用者数に多少の変動があるが、試験期に入った今日この頃は、特に多い。利用者の中には、言葉づかいや、態度が丁寧で物静かな者、粗野で無作法な者などいろいろいるが、我々図書館員は、常に感情的にならないで、誰にも公平に、出来るだけ親切な態度で、接して行かなければならないと思う。なかには、このような心あたたまる場に出会うこともある、1月閉館間もない日のこと、ある女子学生が図書返却の際、館員に“おめでとうございます”と笑顔で年頭の挨拶をしているのを見た。礼儀作法をわきまえない者の多い今日、何かほっとするものを感じた。

カウンター業務は、図書館利用者との応待が主であり、図書の貸出し、返却、登録、レファレンスなどの仕事があるが、レファレンス・サービスの充実が問題とされている昨今、利用者からのあらゆる質問に対して、迅速に適切な解答を出す事はなかなか難しい。それには、図書館にある図書の実態を把握し、図書館業務の経験を積むことが重要であり、その個人研修を、日々自発的に進めていくこともまた、必要なことではないかと言われている。それは確かに正論とは思いますが、しかしながら、そういった研修を常に継続的に続けていくことは、日常の業務に追われている現在に於ては、なかなか容易なことではないと思われる。しかし、積極的に研修しようとする心がまえを忘れてはいけない。

カウンターに立つ時、いつも感じることの一つに、換気の問題がある。利用者数の急増により、図書館が学問研究の場所として大いに役立っている点に於ては、大変喜ばしいことであるが、その結果出入りが激しく、ほこりっぽく空気が悪い。勿論、十分な換気設備が施されているとは思いますが、気持ちよく働けるようにするには、何か良い方法はないものだろうか。 80.1.

今回は、最近わりあい多くある人名に関する質問の代表例5例を含めて、1980年1月までに受け付けた質問の中からピックアップしました。

【質問例 1】

外国人名を調べたいのですが人名辞典はどこにありますか。

〈回答と解説〉

人名辞典は参考図書室の分類280の書架にあります。外国人名を調べるのなら「岩波西洋人名辞典」(280.3: I)、「The McGraw-Hill encyclopedia of world biography」(280.3: M)、「世界伝記大事典」(280.3: S 2)、「The International who's who」(280.3: I 2) 等があります。この他に百科事典、朝日年鑑等の年鑑類、教育事典や文学事典等の専門事典も利用出来ます。

これらの人名に関する調査に利用出来る資料は「びぶりおてか—同志社大学図書館報—」19~20号に「文献探索—二次文献の利用—(17~20) 人名関係調査資料」として187点の資料を紹介していますので、これを利用して適当な資料をさがして下さい。「びぶりおてか」は参考室レファレンスカウンター後の机上にあります。又「文献探索」のみをファイルしたのも同じ所に置いてあります。「文献探索」では人名関係調査資料の他に、今までにキリスト教、哲学、心理学、日本史、法学、経済学、政治学、教育、労働問題、自然科学、公害、芸術、国文学、英語英米文学の二次文献案内をしていますのでこれらも利用して下さい。

【質問例 2】

20世紀アメリカの詩人 Sylvia Plath の伝記と作品に関する資料はありませんか。

〈回答〉

Sylvia Plath の簡単な伝記と著作名なら「英米文学辞典」(930.3: E 2)、「現代英米文学鑑賞辞典」(930.3: G 3)、「The Oxford companion to American literature」(939.03: 0-1a)、「Encyclopedia Americana」(033: E 2) でわかります。「American authors and books」(939.03: A) には著作の解説もついています。「総説アメリカ文学史—資料編—」(939.02: 0 2—2) には著作名と一諸に Plath に関する研究書が載せてあります。図書館で所蔵している資料でもっとも詳しい記述のあるものは「Crowell's handbook of contemporary American poetry」(939.17: C 2) です。この資料には8ページにわたって伝記、著作、Plath に関する文献が載っています。雑誌にも Plath に関する記事が載っています。「外国文学研究要覧 I: 英米文学編」(028.9: G) で搜してみると、Plath の項目に「もう一人の現代詩人 シルヴィア・プラス」(沢崎順之助 英語研究57巻12号)、「〈死〉を生きた詩人シルヴィア・プラス」(徳永暢三 語学26巻2号)、「シルヴィア・プラスの人生と詩」(徳永暢三 英語研究63巻3号)、「Incense of Death—Sylvia Plath の存在の核」(吉田幸子 英語青年120巻10号)の4点の論文がみつかります。Sylvia Plath の伝記書は図書館では所蔵していませんが英文科研究室で Eileen M. Aird 著の「Sylvia Plath」を所蔵しています。Sylvia Plath に関する伝記書、研究書が他にも出版されていないかを調べたい時は「Books in print」(025: P) の Subject (件名) guide で Plath を検索してみて下さい。現在入手可能な欧文図書19点がのっています。この回答で紹介した参考図書は全て参考図書室にあります。

【質問 3】

チャールズ・リンドバーグの伝記はありませんか。

〈回答と解説〉

質問2の回答で紹介した人名辞典、百科事典、「The McGraw-Hill encyclopedia of world biography」(280.3: M 参考室)で簡単な伝記がわかります。McGraw-Hill の伝記事典には参考文献もついています。もう少し詳しい伝記が必要なならカード目録を検索してみて下さい。著者目録(新

目録・旧目録)には、その人が書いた著作の他に、その人について書かれた著作も一緒に配列されていますので伝記書、研究書も探す場合には知りたい人の名前(被伝者名)で著者目録を検索して下さい。著者目録でLindberghを検索すると「我れ等一リンドバーグ半自叙伝一」(新289.5:L)、 「リンドバーグ第二次大戦日記」(新289.5:L-2)、 「The Spirit of St. Louis」(旧697:E2)の3冊が見つかります。なお「リンドバーグ第二次大戦日記」の原書「The Wartime journals of Charles A Lindbergh」を同志社大学アメリカ研究所で所蔵しています。この他質問2の場合と同様にBooks in printのSubject guideを使って搜して下さい。同志社には所蔵していませんが「英雄—チャールズリンドバーグ伝」(ケニス S. デイヴィス著)を大阪府立中之島図書館で所蔵しています。

【質問 4】

詩人北川透の住所が知りたいのですが。

〈回答と解説〉

作家、詩人等の文筆家の住所を調べるには「文芸年鑑」(910.5:B 参考室)巻末の名簿が利用出来ます。これで見ると住所は豊橋市弥生町字東豊和19-3 〒440です。「文芸年鑑」の他に「朝日年鑑 別巻」(059.1:A 参考室)、「現代日本執筆者索引」(281.03:G2)でもわかります。

【質問 5】

高山樗牛の二次文献はありませんか。

〈回答と解説〉

日本の人物に関する二次文献には代表的なものとして「日本人物文献目録」と「人物書誌索引」があります。「日本人物文献目録」(028.281:H 参考室)には3万余名の伝記に関する文献(明治初年から昭和41年末までの文献)が収録されています。高山樗牛は628~629ページに文献が記載されています。「人物書誌索引」(027.38:J)は人物に関する参考文献や著作目録などの個人書誌が、いつ、どこに、どのような形で発表されているか一目でわかるように編集したもので50音順の人名項目でまとめてあります。文献の収録対象年度は昭和41~昭和52年です。これによると「日本現代文学全集 第8巻」に高山樗牛の年譜と参考文献がのっています。但し「日本現代文学全集」は同志社では所蔵していません。この他に「日本文学研究文献要覧 II 現代日本文学編」(028.91:N4 参考室)、「日本近代文学大事典」(910.3:N7 参考室)の高山樗牛の項目にも参考文献がのっています。

【質問 6】

Collingwood 著のThe Idea of nature と The Idea of history の翻訳は出版されていますか。又 H. L. A. Hart 著の Law, liberty and morality の翻訳は出版されていますか。原書は1963年にOxford Univ. Press から出版されています。

〈回答と解説〉

翻訳本が出版されているかどうかを調べる資料として Index translationum (027.34:I 参考室)、「出版年鑑」(025-1:S 参考室)、「日本書籍総目録」(025-1:N3)等がありますが、これらの資料を調べる前に図書館のカード目録で一度調べてみて下さい。Collingwood の著作は2点とも著者目録で見つかります。「The Idea of nature」は「自然の観念」という書名で1974年にみずす書房から出版されています。請求記号は新401:C2-1b で開架閲覧室にあります。「The Idea of history」は「歴史の観念」という書名で1970年に紀伊国屋書店から出版されています。請求記号は新201.1:C-1a で開架閲覧室にあります。もし図書館にない場合でも「Index translationum」を利用して探す事が出来ます。「Index translationum」はUNESCOが毎年刊行する翻訳書の出版目録で国別に配列してあります。巻末に著者索引がありますのでそれから検索すると「The Idea of history」は1970年版の日本のところに「Rekishu no kannen」として、又「The Idea of nature」は「Shizen no kannen」として出版されているのがのっています。又「出版年鑑」でも探す事が出来ます。「出版年鑑」は日本で発行された本の総目録です。巻末に著者索引が付いていますので、これで検索すると1971年版に「歴史の観念」、1975年版に「自然の観念」がの

っており翻訳出版されている事がわかります。

H. L. A. Hart 著の「Law, liberty and morality」はカード目録で捜してもみつかりませんでした。原書が1963年に出版されていますので、1963年以後の資料を調べました。「Index translationum」(1963～1974)、「出版年鑑」(1963～1979)、「日本書籍総目録」(1979)のどの資料にもありませんので現在のところ翻訳出版されていないものと思われます。

【質問 7】

新関良三の論文「俊徳丸とハインリッヒ」の掲載雑誌名及び所蔵している図書館が知りたい。「観世」という雑誌の1963年1月号の記事の中に「最近ある雑誌にこの論文があった」と記されています。

〈回答と解説〉

雑誌に掲載された記事論文を捜すには「雑誌記事索引」が一般的で最も能率の良い資料です。この質問の場合、著者名がわかっていますし、「観世」1963年1月号に「最近ある雑誌に論文があった」という事から1963年1月以前で恐らく1962年に発表された論文であろうと推定出来ます。そこで1962年が含まれている「雑誌記事索引 累積索引版」で文学、芸術関係の索引を捜しましたが新関良三の他の論文はのっていてもこの論文はみつかりませんでした。念の為他の分野の索引も調べて見ましたがやはりみつかりませんでした。これはこの論文が掲載された雑誌が「雑誌記事索引」の収録対象誌でなかったものと思われます。「雑誌記事索引」は非常に便利な資料ですが読みたい論文が収録対象誌にのっていないのでは何の役にも立ちません。そこで著者がわかっていますので「現代日本執筆者事典」(281.03:G2 参考室)、「人物書誌索引」(027.38:J 参考室)を調べました。「現代日本執筆者事典」には著者名のもとに単行書の著作と雑誌論文名が記されています。雑誌論文名には掲載誌名と巻号が付いています。但し著作、論文の収録対象が1967年以後のものなので利用出来ませんでした。「人物書誌索引」は特定の人物の書誌が作られているかどうかを調べる資料ですが新関良三はのっていませんでした。最後の方法として新関良三の著作の巻末に著作目録が付いている場合がありますのでこれを捜しました。著者カード目録(新分類)で新関良三を検索すると4タイトルの著作を図書館で所蔵していました。これらの著作を全部調べましたが著作目録の付いているものはありませんでした。しかし「劇文学の比較研究」という著作の中に論文「俊徳丸とハインリッヒ」が収録されているのがみつかりました。「劇文学の比較研究」の請求記号は901.2:Nで閉架図書です。メインカウンターへ出納請求して下さい。収録誌名はわかりませんが論文はみつかりました。

【質問 8】

日本MTLについてMTLとは何の意味か知りたい。民間の救癩団体で昭和10年ごろに成立していると思うのですが。

〈回答と解説〉

団体について調べる資料として「日本団体名鑑」(061:N4)、「全国各種団体名鑑」(061:Z3)があります。これらで調べてみると「全国各種団体名鑑」の1970年版に日本MTLがのっています。(他の年度にはのっていません)これで見ると設立が大正14年10月という事がわかりますがMTLの意味については何も記載がありません。それで百科事典、社会福祉事典、社会事業辞典等の事典類を調べましたがいずれにものっていません。団体名から捜すのは無理なようなので、次の手がかりとして大正14年に設立された事、救癩団体という事がありますので分類目録で社会福祉関係の項目を検索しました。そうすると旧分類目録で328:Oに「日本社会事業年鑑」が見つかりました。その大正15年版の130ページに「大正14年全国癩患者予防及び救癩の目的を以てMTL(ミッション トゥ リバー)なる会を東京神田美土代町の基督教青年会内にその本部を置いて賀川、遊佐、安井諸氏の発起によって組織された」という記述があります。又旧328.4:T5に「光田健輔と日本のらい予防事業」があり、この中に「大正14年1月26日 日本M. T. L. 誕生 (M. T. L.=Mission To Lepros)」という記述があります。

〔質問 9〕

明治時代の就学率と実質登校率の統計を探しています、特に日清・日露戦争の前後のころについて知りたいのですが、出来れば明治時代全体を通じた変化を知りたいと思います。

〈回答と解説〉

現在の就学率なら「日本統計索引」(028.351：N 参考室)で「就学率」の項目を検索すればどの資料にのっているかわかりますが、明治時代の就学率なので教育—歴史という点から捜して下さい。新分類目録で検索すると373-1：M-3に「学制100年史」という資料が見つかります。この資料の教育統計篇をみると、496-497ページに明治6年から昭和46年までの学令児童数および就学児童数がのっています。これから計算すれば就学率がわかります。この資料だと1冊で明治時代全体の変化がわかります。「学制100年史」は閉架図書ですからメイン・カウンターで請求して下さい。又「文部省年報」(317.27：M)には学令就学、不就学児童数が県別にのっています。「文部省年報」は閉架図書(最新号のみ参考室)ですので必要年度をメイン・カウンターで請求して下さい。明治6年創刊で図書館には創刊号より所蔵しています。実質登校率のわかる資料はみつかりませんでした。

〔質問 10〕

ユ・デ・カーン・ユスフザイのイランに関する記事が「文芸春秋」に掲載されたが何年何月号か。

〈回答と解説〉

参考室にある2次文献コーナーに約210タイトルの雑誌の総目次、総索引が備えてあります。「文芸春秋」の目次もファイルして備えてありますのでこれを利用して調べて下さい。1979年5月号にK.ユスフザイ「シヤーは神に追われた」が見つかります。捜したい論文の掲載誌名がわかっている場合は、その雑誌の総目次、総索引で調べるのが一番便利です。もし掲載誌名がわからない場合は「雑誌記事索引」で捜して下さい。

カウンターの顔



津崎 秋男

今日は！ 閲覧部門の総責任者です。スタッフ一同ベストをつくしています。しかし利用者からみれば、まだまだいたらない点が多いかと思われれます。どうぞ卒直なご意見・アドバイスを…。

島田 繁

昭和12年生。同志社大学法学部法律学科卒。昭和38年入社以来、図書館勤務。スポーツはテニスをしている。嗜好は酒と煙草。カウンターでのサービスをもっと充実させたいと思っている。



今西 美智

図書館歴3年。経験の浅さと勉強不足を補う特技なし。カウンター当番でない日は、事務室で傷んだ本の修理をしています。女だてらに釣が大好きです。趣味を同じくする方、よく釣れたら穴場をそっと教えてください。



数 井 喜久子

出身と性格：大阪市生れで、短気、単純明快

趣 味：卓球、スポーツ観戦、観劇

嫌いなこと：優柔不断、グズ

仕事の担当：切抜本、忘れ物、落し物等の処理、その他庶務一切。



九 鬼 弘 一

同志社大学図書館には三課がありまして、庶務課、整理課、閲覧課となっています。皆様ともっとも関係深いのが、僕のいる閲覧課です。就職して、すぐ図書館に配属され、幸いにも整理課洋書係での見習いを経て、現在にいたっています。今年で4年目を向かえます。図書館で一番の若手です。カウンターにいる我々を、いやがらずに（自分も学生時代は、いやだったが）気軽に話しかけて下さい。



高 野 成 之

大学は、まず第一に勉強するところであり、特に図書・資料がその基礎となります。よって、いかに図書館を上手に利用するかが、諸君の勉学のバロメーターとなると思われます。「図書館利用案内」を熟読したり、疑問に思う事は気楽に質問して、街の本屋さんと同じ様に、気さくに図書館を利用して下さい。



竹 本 文 夫

1959年3月同志社大学文学部社会学科卒業。

同年4月、同志社大学職員となり、図書館に勤務。

以後、図書館につとめて21年。趣味は旅行と将棋。



田 中 昭 彦

昭和42年本学法学部卒業。九州出身、色の黒さに名残りをとどめる。図書館歴13年は比較的新しいほう。カウンターでは先輩と後輩という気持で学生諸君と応対できたらと願っている。



上羽 慶子

図書館へ異動して2年目です。図書館業務については、まだ解らない事が沢山あります。現在は延滞請求の仕事をしていますが、返却期日を守らない人が多いので困ります。皆さん、お互いの為に必ず守るようにしましょう。



木村 新

リュックにカメラと本を詰めこんで、八ヶ岳の森の中、霧ヶ峰の草原で、ローリング・ストーンズを聞きながら、写真を写し、ミステリーを読みたいと思いつつ仕事（レファレンス）をしています。

河合 通夫

大学では、経営学・会計学を専攻。無味乾燥な借方・貸方に熱中し、財務諸表を通じて企業分析等に興味をい込む。図書館では図書の選択、整理、目録の編成を経て、現在、夜間（16：00～19：00）のカウンター業務で諸君達と接している。



濱 望

午後4時以降カウンター業務担当。図書利用状況統計月報及び年報作成等。カウンターは年々忙しくなる一方なので、利用者の質問に十分お答え出来ないこともあるのが残念です。しかし、遠慮せずに二度でも三度でもお聞き下さい。

上田 勝一

II部（16：00～21：00）のカウンター業務を主とし、また開架利用の日々の統計をも担当しています。図書館利用について何かありましたら、気軽にお聞き下さい。一諸に勉強していきます。



善本 勤

16時より21時までカウンターに出ています。貸出、出納、返却業務に精一杯頑張っていますが、皆さんに満足して戴けるサービスが出来ないのが残念です。出来る範囲で皆さんのお役に立ちたいと思いますので利用して下さい。

主 図 合 結 記

主図合結記とは城主集と城図集を合せたもので5巻よりなる折本集である。第一巻に皇畿と北陸道、第二巻に東海道、第三巻に東山道、第四巻に山陰道と山陽道、第五巻に南海道と西海道、合計145城の城図と城主の変遷が収められている。145城の内訳は次の通りである。

(第一巻) 皇畿と北陸道 20城

二條城 淀城 郡山城 高取城 岸和田城 大坂城 高槻城 尼崎城 小浜城 福井城 丸岡城 大野城 金沢城 小松城 大聖寺城 富山城 高田城 長岡城 新發田城 村上城

(第二巻) 東海道 32城

上野城 津城 桑名城 亀山城 長島城 久居城 鳥羽城 名護屋城 犬山城 吉田城 岡崎城 西尾城 荊屋城 田原城 掛川城 横須賀城 浜松城 駿河府中城 田中城 甲斐府中城 小田原城 川越城(河越城) 岩槻城 忍城 古河城 佐倉城 関宿城 水戸城 土浦城 笠間城 下館城

(第三巻) 東山道 39城

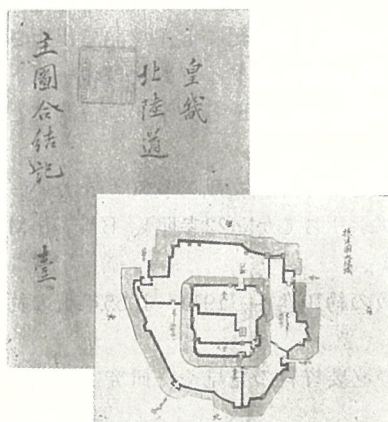
彦根城 水口城 膳所城 岩村城 加納城 大垣城 高山城 小諸城 上田城 高島城 松本城 高遠城 飯山城 飯田城 松代城 館林城 厩橋城 高崎城 沼田城 壬生城 宇都宮城 烏山城 仙台城 二本松城 若松城 盛岡城 津軽城 棚倉城 白川城 三春城 岩城城 中村城 福島城 米沢城 山形城 鶴岡城 久保田城 新庄城 上之山城

(第四巻) 山陰道・山陽道 22城

福地山城 笹山城 亀山城 田辺城 宮津城 出石城 鳥取城 松江城 津和野城 浜田城 姫路城 明石城 立野城 赤穂城 津山城 岡山城 松山城 福山城 広島城 徳山城 萩城 府中城

(第五巻) 南海道・西海道 32城

徳島城 高松城 丸亀城 宇和島城 大洲城 松山城 今治城 高智城 福岡城 久留米城 柳川城 佐賀城 島原城 唐津城 大村城 平戸城 熊本城 宇土城 求麻城 小倉城 中津城 臼杵城 竹田城 豊後府内城 日出城 木村城 日田城 飯肥城 佐土原城 延岡城 鹿児島城 対馬府中城



城の数を昭和43年7月刊行の「日本城郭史料集」に収録された「主図合結記」と照合してみると同志社大学図書館蔵本には和歌山城と須本城の城図が欠けている。史料集には久居城と川越城の城図が欠けている。

この書は徳川中期の軍学者山県大弐(ヤマガタダイニ)(1725~1767)が軍学の一部である築城や城取を講義する資料として諸国の城郭繩張図を収集したものである。年代は明和の初期(1764年~

1767年)頃といわれている。

師の没後弟子達が編集して一書となし、軍学の教科書として活用された。幕府や大名が秘密にしたい内容であったがため刊本とすることが出来ず、人から人へと筆写されて流布された。

冊目の巻頭に序文と凡例があるが前記資料集のものの一部内容が異なり当図書館のものは5巻とあるが、史料集では10巻となっている。

城によって詳細に書かれた図面と粗雑な図面がある。城の図面は各藩の秘密事項であるので他藩のものは正確、不正確はわからないが自藩の城図についてはその正確度がわかるので、誤って作図されていても内心喜ぶだけで、正確な場合は驚くだけで、そのことは顔にも出さないであろう。

この城図は大名や旗本等武士の間でかなり流布されていた。当館所蔵のものは水戸の藩士友部好正(正介と称し、松里と号す)が家蔵の主図合結記が一部欠けているので、天保6年(1835)酒井氏より欠本の部分を借用して筆写し欠本を補ったと前書されている。友部好正は有名な水戸の儒者立原翠軒(当館に数多くの稿本を所蔵す)の高弟の一人である。

主図合結記の原著者と伝えられる山県大貳(1725~1767)は甲斐の国に生れ医を業としたが、後に神社の祠官となり、宝暦初年に江戸に出て塾を開き、国典を教え軍学を講義した。尊王思想に基いて幕政を批判したりした。一時門人1000人に及ぶといわれた。後に所謂「明和事件」に連座して、幕府に対して謀反の疑いありとされて明和4年(1767)死罪に処せられた。

幕府に対して謀反の疑いありと讒訴された理由の一つにこの城図があったといわれている。

最近購入の Gesamtverzeichnis des Deutschsprachigen Schrifttums(GV) 1700—1910, 1911—1965 について

最近本館が購入した Gesamtverzeichnis des Deutschsprachigen Schrifttums(GV)について紹介しましょう。

これまでに出版された文献目録(Deutsches Bucherzeichnis, Titilverzeichnis 1911—1950等10数点)を典拠とし、その文献目録の書誌的事項にはまったく手を加えずそのまま利用して、単一の著者のアルファベット順に配列しなおすという編集方式で Reinhard Oberschelp が編集したドイツ語文献の全国書誌目録で、1700—1910年と1911—1965年の二部に分かれています。各々150巻です。

1700—1910年版は、1700—1910年間にドイツ語によって出版された書籍、逐次刊行物、学位論文が収録されています。

1911—1965年版は、1911—1965年間の半世紀にドイツ語で出版された書籍、地図、逐次刊行物(1951—1965は主要なもののみ)、学位論文を含むドイツおよびオーストリアの大学出版物、スイスの Basel, Bern, Fribourg, St. Gallen, Zurich 各大学の学位論文と出版物、さらに市販されなかった出版物を含め約300万点を網羅しています。

上記の全300巻が、そろいますとドイツ語文献の約80%をカバーすることになります。その網羅性は National Union Catalog(びぶりおてかNo.22参照)、British Museum General Catalog of Printed Books に匹敵するものです。

現在本館には、1700—1910年版の約10巻と、1911—1965年版の約100巻が納入されています。1982年には全巻が完結する予定です。

この膨大な冊子目録をせいぜい必要資料の発見や、研究に役立てて下さい。

“びぶりおてか” 同志社大学図書館報 No. 27 1980年4月1日発行

発行 同志社大学図書館 京都市上京区今出川通烏丸東入 電話 251-3971

編集責任者 楠見 愷伸 (図書館庶務課長) 印刷正文堂